

晩年

D・A・N 通信

No.7

2023.11.21～2024.2.20

団 士郎

2023 の夏頃から約半年、新刊「グラフィック家族理解入門」の原稿をずっと書いていた。「マンガ木陰の物語+短文」、この繰り返しを「システム・家族の構造・ナラティブ」のくくりで配列したものだ。専門書とコラムの融合というか、混在のような一冊は、まあ思っていたような完成度になり、マガジン今号の編集作業に入る直前の校了になった。

振り返ってみると五十歳になる前、公務員時代に単著を出したことはなく、共著をいくつか執筆したことがあるくらいだった。だがその時点で、本を出したいという思いはあった。そんなことを口走ったのだろう。京都府主催の公務員退職記念パーティのテーブルで、面識もなかった部長に「ほお、退職して文筆業ですかー」とあきれたように言われたのが印象に残っている。

だからといって印税生活なんてことを考えたことはない。本なんて収益効率は極めて悪いものだと思っていた。漫画家になって新聞や雑誌に連載することになっても、担当編集者の思いつきや、媒体の紙面刷新ムードに、フリーの漫画家なんてあつという間に打ち切られるのも知っていた。

だからといって、せっかく独立したのだからどこかに属し、そこからの大口収入を確保して、それを主として暮らす生活などはしないと決めていた。つまり、出版も講演、講座も、マンガ連載も、大学教員も、相談員勤務も、どこにも一本かぶりの経済生活はしないと決めていた。経済的理由に縛られた生活から独立したのだから、フルタイム正規雇用の大学教員の口も二つ断っていた(内心、大丈夫か?と不安が首をもたげたりもした)。

今日の結果に至る道筋は輻輳的ではあるが、そのおかげで五十歳から今までに20冊以上の本が出せることになった。「家族心理臨床」系の専門書(もどき)か「マンガ」(「木陰の物語」を中心にしてきたが)。そしてこの度、二つを完全に融合した一冊として「グラフィック家族理解入門」が刊行できることになった。これまでマンガをたくさん作ってくれているホンブロック(kk アソブロック・私の長男の会社の出版部門)から出すことになった。

本が売れない、書店はどんどん潰れる、出版不況、デジタルへの移行など、話題は尽きない出版の世界。私もこの季刊雑誌「対人援助学マガジン」を10数年発行しながら、従来型の印刷媒体であったなら、とっくに潰れていたであろうと思う。新しい葡萄酒は新しい革袋に…とはたまに耳にする言葉だが、古い葡萄酒を新しい革袋に入れるのはありだろう。

インフラが整備されるのと併行して、コンテンツも変化ばかりしては、新製品だらけの、熟れていないものにあふれた世界になってしまう。新しい革袋に、古くからの知見もたっぷり含んだ葡萄酒を詰めているのが「対人援助学マガジン」だ。

11/●

ほぼ咳も出なくなったのでストレッチの後、髪を切りに。朝からバナナくらいしか食べてなかったので空腹。17時前、通りかかったびっくりドンキーでおすすめを聞くと、間もなく期間限定終了のガリバー400gがと。美味しく完食した後、ドトールで今後の行動ノルマ実施計画中。回復だな！

*

あまりピンときていなかったが、「よくそんなものを高齢者が食べるな！」と息子に言われた。考えてみると400gは確かにそうかも。他でのハンバーグの記憶は150gとか250gとか、そんな選択のような気が。

しかし美味しく食べてしまったのだから歳をとるに従って太り気味なものやむを得ない。食欲が落ちるところか、美味しくよく食べるのだ。元気な証拠だと思うことにして、でもお腹が出てくるのは健康上の問題はあるかも。



11/●

二十五年も月例勉強会を継続している草津市。キラリエで二週間マンガ展と本日のマンガトーク。こじんまり、熱心な聴衆が聴いてくださる中で、例によって思いつくままの時間、準備したパワポの内容になかなか入らないのは悪い癖だ。枕の長すぎる落語みたいなもの。今日も久々の人、お初のご縁、様々あった。



11/●

思いがけない巡り合わせで信楽 MIHO ミュージアムへ。金峯山(きんぷせん)のことなど、はるか昔の日本史単語

の記憶にしかなかった。役行者(えんのぎょうじゃ)もそうだ。解説を読みながら、千年も前のことかあと調査研究する人達を思う。今生きる人のことばかり考えるポジションにいと時々、こういう人の仕事が気になる。

*

菅原道真の頃、隆盛下にあった金峯山詣でが時と共に寂れて消えていく。信仰のようなものにも時の流行があるのが面白い。その程度のものなのだ。100年くらいしか生きない人間が考える本気や真実だから、こんなことは過去から今に引き継がれて起きている。たかだか人が、今本気で言っているにしても、自然の営みの何にもかなうものではない。そう思っていれば、些細なことに思い煩う自我や己を、それほど持ち上げずとも良い。その程度の存在なのだ。



12/●

赤坂のスタジオで家族理解研修素材 DVD 三作目の収録。ホンブロックから無料貸し出しの一作目、二作目は六十回もの勉強会が全国で開催されたという。好評につき三作目というわけだ。

終了後、不思議な申し出で、私のマンガ「木陰の物語・小雨の行列」を勝手に紙芝居にしてあちこちで上演している栄ちゃんという人と会う。

*

著作権とかあまりうるさく言うつもりがない。基本、教育・啓蒙的利用ならありがたいことだと了解している。この紙芝居、絵もそれ用に描き換えられ、表記通り私は原作者といった感じだ。

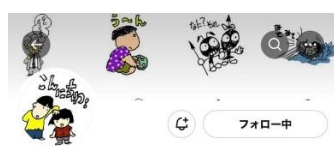
最近、「セクシー田中さん」の原作とドラマの間の問題が話題になり、漫画家が亡くなる事態にまでなった。スケールの違う話かもしれないが、この紙芝居の原作からの切り取り加工も、同様のことは漂っていた。

紙芝居はある意味、世間に分かってもらいやすい、感動してもらいやすい話にトリミングされていた。

正直、原作者として肝心なところが違うんだがなあと思った。でも、読者が私の作品を見るときにも同様のことが起きている可能性があることには気付いている。作品を他人に見せるということは、どのように受け止めるかは相手に委ねることだ。

でも、中間で別の発信に作り替える場合は、基本作者の意図は尊重されるのが良いと思う。とはいえ、私的にはどうでもいいんだけどね。

DVD 第三弾、収録時の写真。見たことがなかった。私の公式 x(まだ Twitter が馴染みだけど)もあまり目にしなかったが、DVD を使った各地での自主勉強会レポートがたくさんある。少人数で、自由に開催できる仕組みになっている。もう 62 回もあちこちでやっているのか。よかったらどうぞ。



士郎さん.com 公式
@shilangsan23661

家族心理臨床家・団士郎さんのオフィシャルサイト「士郎さん.com」の連動ツイッターです。全国で開催されるワークショップや講演の情報をいち早くお知らせします。

shiro-san.com



士郎さん.com... 2024/02/04 ...

士郎さんに家族を学ぶ会〜DVDを使った研修会が1/28日曜日、堺市で開催されました。世話人を務めてくださった岩村さん、ありがとうございました。

v62さかい家族支援を学ぶ会（堺市）開催 | DVD講演会事務局@miracon #note



場所: note.com

12/●

三日間留守にして自宅に戻ったら置き配・宅配便のお知らせの山だった。本二冊、お歳暮のコーヒー、インクカートリッジ。一番多量なのは時間指定で受け取った五個口100冊のこれ。想像以上に嵩張っているし重い大判本。読む楽しみと、読みたい人に届ける楽しみを今から味わおう。

*

パリ在住の安發明子さんが、クラウドファンディングで出版にこぎ着けたフランスのコミックス。「エデュケーター」という職種の家族支援の専門家をしながらマンガも描いて、雑誌連載しているパポさん。

親子をまるごと在宅で支える。援助職としての距離感はずっと近くなる業務形式だ。専門細分化して、責任の押し付け合いに汲々としている今の日本から見ると、近所の知り合いのような、親類のおじさんのような援助形式。

それはそれでいろいろあるのだろうが、負担を背負う覚悟は見て取れる。誰かの失敗の責任追及ばかりし合っている日本よりは自由だ。

働いている人の姿が見えずに、ルールや法が前面化するのは福祉や教育の分野のことではない。昔は日本でもしていたことがすっかり姿を消してしまった業界になって、滅びつつあるのだと思った次第。働きたいと思う人も減っていく。



12/●

好天の日曜。KISWEC で家族面接を二つ見ながら、時代の家族だなあと思う。

*

ケースの中身を詳しく書くわけにはいかないが、扱われている問題と展開の今日的なことに少々驚く。出来事は昔からあるような訴えでも、その意味づけや対応、展開がとても時事的なのだ。

ざっくり言ってしまうと「金」の話なのである。「家族、子育ての相談で金かよ！」と思わなくもないが、一方で今の日本的だなあと思う。いわゆる経済・貧困の問題ではな

く、国政の舞台でも連日騒がしい不適切な金銭処理問題同様の問題が家族でも起こっている。

日本社会の相対的貧困話と多額の振り込め詐欺(金を持った被害者)が並立するのと同様なことが起きている。

12/●

夜、自宅で録画してあったM1を見る。優勝は「令和ロマン」だろうなと思ったらそうだった。納得。二人の存在感がいい。

*

M1 グランプリにはスタートから馴染んできた。わくわくするような面白さになっていったのは数回経てからだと思うが、新しいお笑いスターが輝き出すのを楽しみに見てきた。

これまで年末に見てしばらく真似するのが止められなかった筆頭はサンドイッチマンの「宅配ピザ」のネタだった。そしてミルクボーイの「コーンフレーク」。あらためて自分がサブカルチャー体質だなと実感する。

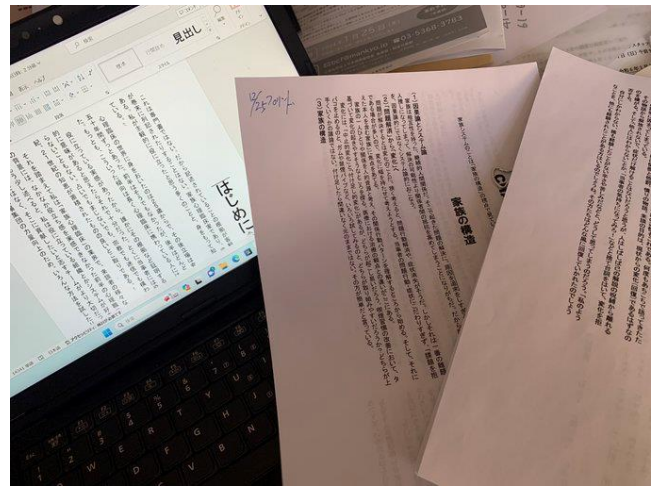
12/●

年末までと心に決めた 250 ページほどの原稿(「グラフィック家族理解入門」)がひとまず完成。もう一度読んでみて、編集者に投げる。出版までまだまだ手直しはあるだろう。

*

実際の進行状況はというと、前文にも書いたように現在(2月22日)まだ手元にある。2月末には編集者に手渡せる状態になった。書き進めながら気づいたことが多く、面白い体験だった。あらためて文章化することと、言葉として発している事との較差というか、持つ意味のそれぞれさを考えた。さらにそこに、話題・論点のチョイスに時代が深く関わってくることも感じた。

今だからいえることが、十年先にも言えていることかどうか。できればロングセラー書籍になってほしいと願っている。「流行言葉」の商売人にはなりたくないからなあ。



12/●

無事、2023 年の大晦日を迎えることができた。昨日は連載新作を完成して発送。大掃除や正月の準備など1mmもない。2024 年は又、老いも若きも、それぞれにいろんなことが待っているのでしょう。皆様、どうぞ良いお年を。

*

こう書いた翌日、能登半島で大地震が起きて多くの被害が出た。東日本大震災の時が思い出され、復興してゆくまでの長い日々が思われた。そしてあの時の私、六十四歳の共鳴と、今、七十六歳になった私の共鳴は同じにはならないことに気付く(体力の問題は大きい)。渦中の人たちが何歳で被災したかは、個々人の今後の展開への大きな要素になるだろう。

京都からの緊急支援的に動いている人(馴染みのスペイン料理レストラン店主・木下さん)に少し応援をして、今後の長期復興プランにどう関わっていくかを、東北の時とはまた違ったかたちで考えなければならない。石川にはたくさんの友人、知人、マガジン執筆者がいる。

1/●

大波乱の幕開け 2024、とにかく明けましておめでとうございます。皆さん、生き延びてください。

net 注文した一人用のお節は、まったく意味がなかった。一応初詣にも近江神宮に次男一家と出かけた。元々年末・年始嫌いの私的には、さっさと一月のスケジュールに突入の感じだ。



1/●

このところコンスタントに掛軸マンガ展が開催できている。それに伴って、作品の選択、発送、返却作業がノルマ化する。今朝も担当のHさんが来て、手順を整えてくれた。ネット通販で見つけたカメラ三脚用バッグが、掛け軸の宅配発送にちょうどいい。いろいろ便利なものが格安で手に入る時代だ。



1/●

久しぶりの伊丹空港。明日の一日WSのため、高知行き。今回は継続しているWSプログラムとは別口の依頼だったのに、混同して航空券やホテルのことで行き違い。

それが直近になって判明して慌てて即対応。そんな対応作業がスマホでできるのはありがたい。あちこち走り回っていると、当然のようにトラブルも多いな。



1/●

結局、日曜夕刻の帰路便を取り損ねたので、高知に土日連泊。観光などしたことがなかったので、何十年ぶりで高知城に行ってみた。南国の気温は12℃、風もなく、冬装束で歩いていると汗ばむ。目に入った高知文学館にも立ち寄ってみた。久々に清岡卓行のことを思い出してネットで一冊購入。

*

この高知散策を翌日のXに書いた。するとすぐに、文学館から展示は撮影禁止だから、無断撮影の写真は消すよう連絡があった。凄いなあ。

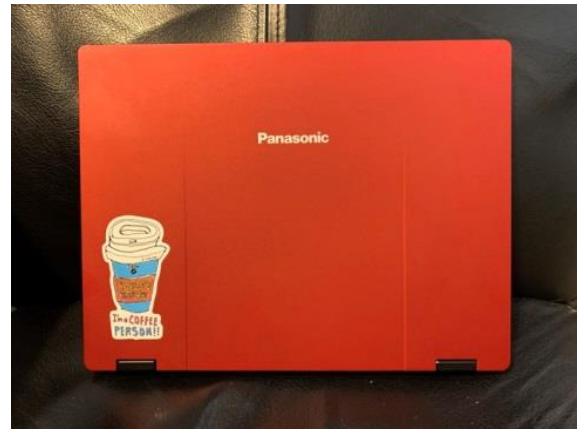
世界の美術館は撮影フリーの時代に、日本はいつまでも撮影禁止だ。なんというローカルルールだと思うが、すぐに対応して写真を消す。



1/●

「児童相談所と近接領域の家族療法勉強会 in 浜松」。漫画展をプログラムの隙間に見てもらおうよう準備した。本も販売しているが、昼休みにはたくさんの方が見てくれて「家族の練習問題」も買ってください。

あちこちで漫画展が開催出来るようになったが、まだ見たことのない方も多い。会場が確保できたら、全国各地でどうぞ開いて下さい。



1/●

マンガ同人「ぼむ」の月例会。1970 年に「同人誌ぼむ」を発行して以来だから、長い時が流れた。みんな高齢者になったので、病気の報告もあちこちから。それでも元気な間は、この会は続く。今年も4月の第一週には京都、余花庵でぼむ漫画展。

*

歳をとったからといって、病気話と孫話にしたいわけではない。実際にガンを患ったものが三人も出たのだから、経過報告だ。元気で漫画展を続けるのが目標の集会だ。



2/●

仕事場のエアコンが夏も冬も中途半端な働き。マンションが建った時からの設備だから、五階建ての賃貸全室の中でも多分もう唯一の生き残り機種だろう。96 年製って！きつと電気代も無駄に食っていると思うが、設置の構造上取り替えが大工事になるのが面倒でズルズル今日まで。しかしいよいよ業者にきてもらうことになった。

1/●

浜松に来ているのだ。やはり鰻は欠かせない。帰路の新幹線まで少し時間があつたので、ホテルで荷物をピックアップ後、駅前の気になった二軒の内のこちらに。

コンビニの2階の店ってどうかなあとドアを開けたら異空間。気になったメニューの「食べ比べ重」を注文。確かに違いはあるが共に美味しかった。



1/●

2023 年もよく働いたご褒美に、具合イマイチなノート PC を新しくしておいた。いろいろカスタマイズするので、年末、大阪駅前のヨドバシカメラで、レッツノートの専従スタッフに頼んでいたモノが届いた。すごく綺麗で気に入った。早速シール第一号を貼った。



自分自身も、周辺の物も、皆老化している。不思議なのは 30 年近く使っていたのに昨夜、いよいよ全く動かなくなった。

そして予定通り今日の工事。律儀な機械だなあと長年働いてくれたエアコンに感謝。物にもそんな所があるね。



2/●

マガジン No.56 の原稿締切日を知らせると執筆者から、休載とか早めに出しますとか、初めてエントリーしますとか、いろいろ返信がある。

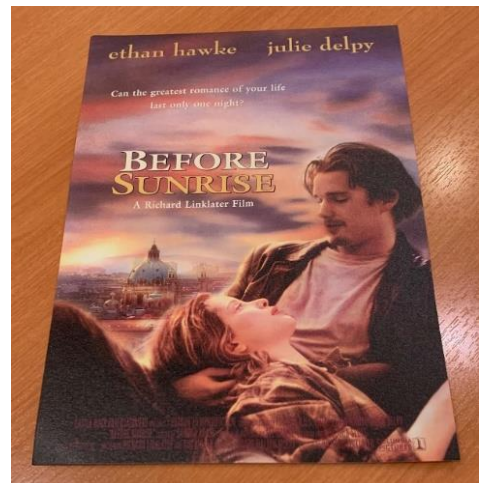
昨日の kiswec 家族面接はケースが欠席だった。今日は雨模様で出かける気にならず在宅にした。

先日手に入れた PC はクルリと回転させるとタブレットになり、画面が大きいのでコミックスを読むのに kindle よりも良い。



2/●

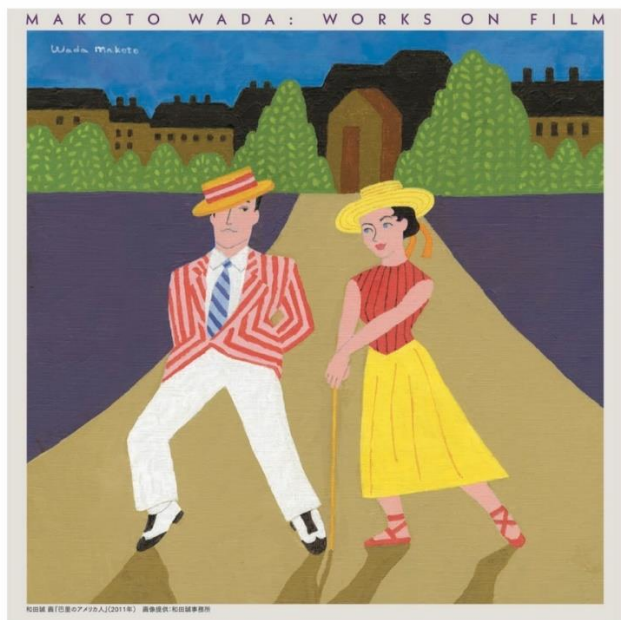
確定申告の整理を済ませ、仕事場がダンボールハウス(屋内が)状態だったものを片付けた。明日、明後日の講座と WS プログラムの準備をしたところで、夕飯に出た。その後、三部作をすべて DVD で観たビフォア…シリーズの第一作 1995 年公開作を映画館で。二週間の限定再上映だそうだ。



2/●

昨日は家族理解 WS 東京。少人数だったが、準備したプログラムを快調に。身内感覚が強いと自民党代議士の失言のようなメカニズムが働くなあと反省。

今日は東京駅近くのこここれ。2 年前、和田誠展で大抵知っている気もしたが、映画に特化したものの情熱が楽しい。ぼむ展用準備に励もうと思う。



2023.12.12(火) - 2024.3.24(日)

国立映画アーカイブ展示室(7階)

※月曜日より12月26日(火)・1月4日(木)は休室です。
 観覧時間: 午前11時～午後6時30分(入室は午後6時まで) ※1/26、2/23の両曜日は観覧時間を午後5時まで延長いたします。(入室は午後7時30分まで)
 料金: 一般250円(2023/12/25)・大学生150円(2023/12/26)・65歳以上、高校生以下及び18歳未満、障害者等も持参の方(付添者は別料金)まで、国立映画アーカイブメンバーシップ会員は無料。 ※料金は常設の日本映画展に限り、入場料を要します。 ※1/26は2023年11月の招待料金を要します。 ※学生、65歳以上、障害者等も持参の方、メンバーシップ会員の方は入室の面、証明できるものを提示ください。
 ※国立映画アーカイブの主催する映画の上映会(有料上映会)「映画展(有料)」または「映画展(有料)」のチケットが購入できる場合があります。
 主催: 国立映画アーカイブ
 協力: 和気館事務所、多摩美術大学アート・デザインセンター
 国立映画アーカイブホームページ: www.nfa-jp.jp
 X(旧Twitter): @NFAJ_PR Facebook: NFAJPR Instagram: nationalfilmarchivejapan

和田誠 映画の仕事

慌ただしい外仕事が一区切りして、しばらくは中仕事。
 仕事場に泊まり込んで新刊の原稿の最後の手入れ。2月中には終える！昨日手にした、知らなかった雑誌の特集、文化戦争がめちゃ面白い。漫画もいっぱい。



2/●

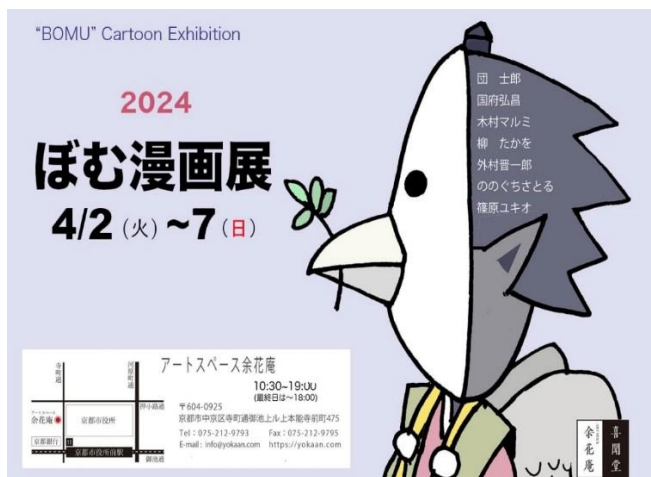
こもり作業の日々。今年のぼむ展は4月2日～7日まで。毎年の京都、寺町御池上がるのギャラリー余花庵で。その準備の掛軸作りを、この時期に集中的に。まだ完了はしないが、今年はこのテイスト三作。
 この後は対人援助学マガジンの原稿、編集になる。

*

ぼむ展にはマガジン連載執筆者・柳たかを、篠原ユキオも出展しています。ぜひご来廊ください。

2/●

昨日、今日は立命館大学で家族理解講座 6 コマ。少人数ながら和気藹々の時間。お昼一緒に食べに行きましよう誘われて、みんなでランチにも。院生が多いが最年少の学部生は 19 歳だそう。脱線多数の話の展開は、どの年代の人達までついてこられるのか、時に心配になった。



2/●